

施設園芸グリーン化促進協議会（高知県須崎市）

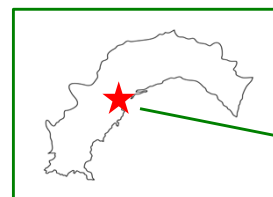
R3補正
R4当初

47

背景・課題

須崎市は温暖な気候を利用して園芸用ハウスを用いた促成栽培が盛んであるが、冬期の燃油暖房機使用における化石燃料の使用量削減が課題となっていた。

これまで、空気熱源式ヒートポンプの導入を推進してきたが、より加温能力が高く、かつ省エネルギーである加温方式が求められていた。そこで、厳寒期でも温度が一定である地下水を用いた水熱源ヒートポンプと蓄熱タンクを導入することで、これまでと同様のハウス内環境を維持しながら、化石燃料の使用量削減の実効性について実証を行った。



須崎市

構 成 員

高知県、須崎市、JA土佐くろしお、ネポン株式会社、農業者

品 目

ししとう

成果目標と達成状況

本事業における目標年次は令和6年度で、成果目標は次のとおり。

- ① 化石燃料（A重油等）使用量を74%低減する。
- ② 単収当たりの化石燃料（A重油等）使用量を74%低減する。

令和4年度の実証結果については、次のとおり。

- ① 化石燃料使用量は、現状(13,889L/10a)に対し、12,520L/10aとなり、使用量は9.9%減となった。
- ② 単収当たりの化石燃料使用量は、現状(R3:1,74L/kg)に対し、1,48L/kgとなり、14.9%減となった。

令和4年度の水熱源ヒートポンプの実証期間はシシトウの加温期間の一部であったため、目標達成には至らなかったが、水熱源ヒートポンプの導入により化石燃料の使用量の削減効果が認められた。

取組の成果

令和4年度の水熱源ヒートポンプの実証期間（R5.3.8～3.31）が加温期間（10～4月）の一部であったことから化石燃料の削減量は9.9%減で目標達成に至らなかったが、実証期間中の化石燃料使用量と前年度同期間（R4.3.8～3.31）との比較では1,807L減（95.4%減）が確認されていることから、令和5年度以降は加温期間全体を通して十分な削減効果が見込まれる。



普及に向けた取組

実証技術の地域への普及・定着を図るため、同様の施設の設置費用をはじめとした諸条件の更なる整理・検証、シシトウ栽培技術マニュアルの作成・普及を行う。

このほか、他品目についても本技術の検討を行うなど、SDGsの取組を加速させる。

問い合わせ先

高知県農業振興部農業イノベーション推進課
TEL：088-821-3076